

2022年3月31日

一般社団法人日本独文学会 2021年度事業報告書

一般社団法人日本独文学会は2021年度に次の事業を行った。

1. 春季（オンライン）及び秋季研究発表会（オンライン）の開催
 - ・ 2021年6月5日、6日両日、東京大学本郷キャンパスにおいて開催予定だった一般社団法人日本独文学会第3回総会および春季研究発表会は、新型コロナウイルス感染症拡大のためZoomによるオンライン形式で開催され、活発な質疑応答および意見交換が行われた。研究発表会の内訳はシンポジウム3本、口頭発表10本、ポスター発表1本、ブース発表1本であった。また、第18回日本独文学会・DAAD賞授賞式、第61回ドイツ語学文学振興会賞授賞式・総会、ドイツ語教育部会総会および講演会が開催された。さらに、朝日出版社・郁文堂・三修社・第三書房・同学社・白水社・ひつじ書房各書店によるオンラインブースが設けられ、プレゼンテーションが開催された。
 - ・ 2021年秋季研究発表会は10月2日および3日に東北大学川内キャンパスで実施される予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大をうけて、Zoomによるオンラインで開催された。対面で行われたこれまでの秋季研究発表会と同様、1日目は13:00～17:45、2日目は10:00～13:00に開催された。研究発表会の内訳はシンポジウム2本、口頭発表9本、ポスター発表2本、ブース発表2本であった。また、口頭発表・シンポジウムと並行して、朝日出版社・郁文堂・三修社・第三書房・同学社・白水社・ひつじ書房各書店によるオンラインブースが設けられた。また1日目の18:00～20:00に新たなオンラインツール oVice を用いてオンライン懇親会が開催された。
👉 「決算報告書（第3期）」損益計算書の科目：【売上高】参加費収入
および内訳書の科目：総会・研究発表会開催費
2. 機関誌『ドイツ文学』／„Neue Beiträge zur Germanistik“ の発行（年2冊、うち1冊は欧文誌）
 - ・ 2020年度下半期に刊行が予定されていた162号（和欧混合誌）を2021年6月に刊行した。特集「日本における『外国語としてのドイツ語（DaF）』－教育実践と教育研究の新たな方向性」9篇、一般投稿の文学・文化部門論文4篇、教授法部門論文2篇、書評・新刊紹介7篇を掲載した。
 - ・ 2021年度上半期に刊行が予定されていた163号（欧文誌）を2022年3月に刊行した。特集„Österreichforschung in Japan“ 7篇、一般投稿の文学・文化部門論文1篇、語学部門論文1篇、書評2篇を掲載した。

- ・ 2021 年度下半期に刊行が予定されていた 164 号（和欧混合誌）は初稿の入稿を終えており、2022 年度上半期に刊行する予定である。特集「技術／テクノロジー」7 篇，一般投稿（文学文化 3 篇，語学 2 篇，書評・新刊紹介 7 篇）。
 - 📁 「決算報告書（第 3 期）」損益計算書の科目：【売上高】機関誌売上収入
 および内訳書の科目：機関誌作成費（ただし、163 号・164 号の支払いは諸般の事情により 2022 年度回し）

- 3. 文化ゼミナール・語学ゼミナール・教授法ゼミナールの開催及びその記録論集の発行
 - ・ 2022 年 3 月 13 日～17 日に開催予定だった第 62 回ドイツ文化ゼミナールは，新型コロナウイルス感染症の拡大のため中止となった。代わりに 3 月 13 日～15 日に文化ゼミナール・オンライン代替企画 II が開催された。講師は Prof. Dr. Hans Richard Brittnacher（ベルリン自由大学），テーマは Die Phantastische Literatur で，参加者は 42 名であった。
 - ・ 第 48 回語学ゼミナールオンライン代替企画が 2021 年 8 月 31 日（火）～9 月 3 日（金）に行われた。招待講師はコンスタンツ大学の Josef Bayer 教授，招待講師の講演の演題は „Deutsche Partikeln als funktionale Köpfe“ で，参加者は 47 名であった。また，語学ゼミナール論集（2020 年度実施分，招待講師：Daniel Hole 教授）として „Linguisten-Seminar: Forum japanisch-germanistischer Sprachforschung“ 第 4 号が 2022 年 3 月に刊行された。
 - ・ 2022 年 3 月 19 日から 21 日まで，第 26 回教授法ゼミナールが対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式で開催された。講師は Karin Kleppin 教授（ボーフム大学），テーマは Prüfen, Testen, Evaluieren – Ansätze für Praxis und Forschung，参加者は 23 名であった。
 - 📁 「決算報告書（第 3 期）」損益計算書の科目：【売上高】受取 DAAD 助成金
 および内訳書の科目：ゼミナール運営費（ただし，語学ゼミナール論集の支払いは諸般の事情により 2022 年度回し）

- 4. ドイツ語教員養成・研修講座の実施
 - ・ ドイツ語教育部会，東京ドイツ文化センターとの共催で開催している「ドイツ語教員養成・研修講座」は，2021 年度は，2019 年度秋開講後期分の内 4 回のワークショップと，2021 年度秋開講前期分の内 4 回のワークショップが行われた。今期は，時流に合わせて講座目標を見直し，Zoom による全面オンライン開催に移行した。専用のプラットフォームである Moodle は，受講者・講師双方にとって，ドイツ語教育について再考する刺激的な議論の場となっている。
 - 📁 「決算報告書（第 3 期）」内訳書の科目：ゼミナール運営費

5. 日本独文学会・DAAD 賞の授与

- ・ コロナ禍のために延期されていた第 17 回および第 18 回日本独文学会・DAAD 賞（2018 年度および 2019 年度刊行分）の授賞式を 2021 年 6 月 5 日オンラインで挙行了した。
- ・ 第 19 回日本独文学会・DAAD 賞（2020 年度刊行分）は、現在審査中。
👉 「決算報告書（第 3 期）」内訳書の科目：支払い学会賞費

6. 日本独文学会研究叢書の発行（学会ウェブサイトによる電子出版）

- ・ 2021 年度に以下の 5 号が公開された。
Nr. 144 ベンヤミンの経験への問い—1930 年代を焦点に— (2021. 10. 2)
Nr. 145 言語を逍遥する詩人—多和田葉子の文学をめぐって— (2021. 10. 2)
Nr. 146 「詩人たちの時代」の終わり？—ヘルダーリン、ツェラン、そしてバディウ— (2021.10. 2)
Nr. 147 「オリジナル」とはどういうことか—近現代ドイツ語圏文学における複製の問題圏— (2021. 10. 2)
Nr. 148 生誕 100 年 世界文学の中のパウル・ツェラー—その翻訳と受容の多様性— (2021. 10. 2)

7. その他のドイツ語、ドイツ文学及びドイツ語教育の研究及び普及に資する事業

- ・ 第 6 回ドイツ語論文執筆ワークショップは、2021 年 11 月 6 日（土）と 7 日（日）の 2 日間の日程で、オンラインで開催された。今回のワークショップでは、当初予定されていた DAAD からの資金援助はなく、懇親会の開催も見送られた。講師は、井出万秀氏（立教大学）、マヌエル・クラウス氏（早稲田大学）、宮崎麻子氏（大阪大学）が、実行委員は、池中愛海氏（慶應義塾大学）、若山真理子氏（東京大学）、馬場大介氏（立教大学）が務めた。今年度のワークショップには、大学院生、若手・中堅の研究者を中心に、両日合わせて 11 名（独文学会会員 8 名、非会員 3 名）が参加した。

8. 法人運営に関すること

- ・ 『一般社団法人日本独文学会会員名簿 定款・規程集』を 2021 年 11 月付で編集・発行し、2022 年 1 月に会員に配布を完了した
👉 「決算報告書（第 3 期）」内訳書の科目：事務委託費，通信運搬費，印刷製本費